

かけはし

徳島県社会福祉事業団設立 50 周年記念特別号



ふらっと KOKUFU 1周年感謝祭

発刊について

令和4年度に設立50周年の節目を迎えた当法人は、令和4年10月3日(月)にJRホテルクレメント徳島で、「設立50周年を経て、さらなる挑戦と飛躍のステージへ」をテーマとして「設立50周年記念事業」を約200名の参加者のもと開催いたしました。

本事業は、利用者と家族のほか、地域の方々、関係機関の皆様至今已の感謝の気持ちと、職員の熱い思いを伝えることを目的とし、午前は「記念式典」と「記念講演」、午後からは、3つの「ワークショップ」を行い、参加者と共に学ぶ機会を設けました。

記念式典の開会に先立ち、四国大学書道文化学科学生のパフォーマンスグループ「はれるや」及び事業団の施設利用者による書道パフォーマンスが行われました。

続いて、伝統文化の書道と先端技術VR(バーチャルリアリティ)を融合させ、仮想現実の空間に筆を走らせ立体的にメッセージを揮毫する「VR書道パフォーマンス」が行われ、事業団の歴史を踏まえた上で新たな挑戦を行い飛躍するという大会テーマにふさわしいオープニングとなりました。

本誌は、当日行われた「記念式典」「記念講演」「ワークショップ」等の内容と、令和4年度に、法人及び各事業所が実施した地域貢献事業の内容を中心に収録し、法人設立50周年記録誌として発刊するものです。



《 CONTENTS 》

【徳島県社会福祉事業団の歩み】	2
【設立 50 周年記念式典】	
ごあいさつ 徳島県社会福祉事業団 理事長 小 谷 敏 弘	4
祝 辞 徳島県知事 飯 泉 嘉 門	5
徳島県議会議長 南 恒 生	6
四国大学・四国大学短期大学部学長 松 重 和 美	7
【保護者のメッセージ】	
希望の郷家族会会長 松 永 幸 子	8
未来保護者会会長 西 町 和 也	9
ラクリエ家族会会長 桑 村 圭二郎	10
感謝状贈呈	11
記念講演 講師：社会福祉法人佛子園理事長 雄 谷 良 成	12
演題：「ごちゃまぜ～地域を拓く共生社会」	
【ワークショップ】	
「強度行動障害と共に歩む ～持続可能な未来へのアプローチ～」	14
「光アート×パラスポーツ ～フード・ファイターゲーム～」	16
「Library for All ～近未来の図書館や図書のカタチを覗いてみよう～」	18
【100 周年へ】	
100 周年への希望のメッセージ ～みんなの想いを一つのアートに～	20
【各事業所記念事業・地域貢献事業】	
「ふらっと KOKUFU 1 周年感謝祭」 ふらっと KOKUFU	21
「とくしま体験トライ」 徳島県立総合福祉センター	22
「2023 頑張るんじょ! とくしま パラスポーツフェスティバル」 徳島県障がい者スポーツ協会	23
「四国大学との連携事業」 大学連携・広報プロジェクトチーム	24

徳島県社会福祉事業団の歩み

1972年 4月
(昭和47年)

徳島県社会福祉事業団設立
徳島県立軽費老人ホーム千秋園の受託経営
徳島県立盲人福祉センターの受託経営
徳島老人福祉センターの設置経営



(徳島県立軽費老人ホーム千秋園)



(徳島県立盲人福祉センター)

1983年 11月
(昭和58年)

徳島老人福祉センター廃止
徳島県立総合福祉センターの受託開始

1997年 4月
(平成9年)

知的障害者更生施設あけぼの更生センター及びおおぎ学園、
知的障害者授産施設あけぼの授産センター、
盲ろうあ児施設ライトホームの県立4福祉施設の受託を開始

2006年 3月
(平成18年)

徳島県立盲人福祉センター廃止

2006年 4月
(平成18年)

徳島県立総合福祉センターの指定管理運営を開始
徳島県立障がい者交流プラザの指定管理運営を開始



(徳島県立総合福祉センター)



(徳島県立障がい者交流プラザ)

2007年 12月
(平成19年)

知的障害者更生施設あけぼの更生センター及びおおぎ学園、
知的障害者授産施設あけぼの授産センターを廃止の上、移転統合し、
障害者支援施設「希望の郷」を開設



(あけぼの更生・あけぼの授産)



(おおぎ学園)



(希望の郷)

2009年 3月
(平成21年)

徳島県立軽費老人ホーム千秋園廃止

2012年 4月
(平成24年)

障害児入所施設あさひ学園の経営を開始

2015年 4月
(平成27年)

あさひ学園を廃止し、障害児入所施設「未来」として事業開始



(あさひ学園)



(未来)

2021年 9月
(令和3年)

地域生活支援拠点として「ふらっとKOKUFU」の事業開始



(ふらっと KOKUFU)

ごあいさつ

社会福祉法人徳島県社会福祉事業団
理事長 小谷 敏 弘

本日は、当法人設立 50 周年記念式典・記念事業を開催いたしましたところ、飯泉徳島県知事、南徳島県議会議長様をはじめ、四国大学・四国大学短期大学部松重学長様、多数の来賓の皆様のご出席を賜り、こうして盛大に開催できますこと、心より感謝申し上げる次第です。

社会福祉事業団は、昭和 47 年 4 月に設立されました。半世紀にわたり、県と一体となって社会福祉事業を続けてまいりました。これも、ひとえに今日の礎を築かれた先輩役員・職員はもとより、保護者やボランティアをはじめ、関係機関・団体の皆様方のご支援の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

当法人は、県立施設の受託経営から始まり、以来、「県立総合福祉センター」「県立障がい者交流プラザ」、さらには、障害者支援施設「希望の郷」、障害児入所施設「未来」の経営をしております。

そして、昨年 9 月には、総合的な地域生活支援拠点「ふらっと KOKUFU」がオープンしました。障がいのある子どもから大人まで切れ目のない支援拠点であり、地域共生社会の実現に向けた中核施設でもあります。地域に開かれた、世代を超えた、誰もが気軽にふらっと立ち寄ることができる交流拠点となるよう、運営を開始し、1 年を迎えるところであります。

このように、障害福祉サービスを法人の中心軸において、利用者の皆さんやご家族のニーズを受け止め、障害福祉制度の変遷や社会福祉法人をめぐる制度改革に合わせて、これまで歩みを進めてまいりました。

当法人では、設立 50 周年の節目を迎えるにあたり、地域貢献を一層積極的に進めるため、プロジェクトの一つとして、令和 4 年 1 月に四国大学・四国大学短期大学部と包括連携協定を締結しました。今後、福祉と教育の連携、共同研究により、将来の福祉人材の育成や福祉事業のこれまでにない可能性が広がるよう取り組んでまいります。

本日は、「さらなる挑戦と飛躍のステージへ」をテーマに掲げ、利用者やご家族、地域の方々、関係機関等の皆様に感謝の意を表すとともに、次代へつなぐスタートにしたいと考えております。

この後、石川県で様々な人が一緒に暮らせる町づくりに取り組んでおられる、社会福祉法人佛子園理事長の雄谷良成先生にご講演いただきます。また、午後には、3つのワークショップに分かれ、直面する課題について皆さんと一緒に考え、先駆的な取り組みについてもご紹介いたします。

社会福祉事業団は、これまでの歴史を継承し、未来のニーズを見据えた新たな取組にも積極的に挑戦し、さらなる利用者サービス向上、地域貢献に一層力を入れてまいります。

「つながれば広がる よりそい支え合う だれもが活躍できる社会の実現へ」

法人の理念であります。この理念の実現に向けまして、私たち職員は志を高くもって、一生懸命取り組んでまいります。

本日、ご臨席の皆様におかれましては、さらなる 50 年後に向けまして、一層のご支援、ご理解をお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

祝 辞

徳島県知事 飯 泉 嘉 門

社会福祉法人徳島県社会福祉事業団（以下、事業団という。）が設立 50 周年を迎えられ、その記念式典が、新しい生活様式に則り厳粛な中にも盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。これもひとえに小谷理事長はじめ歴代理事長の皆様、役員の皆様、そして職員、利用者の皆様方のご尽力の賜物であると、心からの敬意と感謝を申し上げます。

事業団におかれましては、昭和 47 年の設立以来、県が進める様々な社会福祉事業や施設管理をはじめとする福祉の第一線を県と共に担っていただいております。

私は、知事就任直後の平成 15 年 5 月から平成 17 年 7 月まで、事業団の理事長を務めさせていただきました。この時期、福祉分野においても我が国の一大転換期を迎えることとなり、障がい者福祉における支援費制度が導入されました。また、指定管理制度の導入により、「県立総合福祉センター」及び「県立障がい者交流プラザ」等の管理を、これまでの委託運営ではなく指定管理者として、事業団に行っていただくことといたしました。

さらに、利用者の皆様方の声を具現化し利用者目線での施設運営を行うため、「あけぼの更生センター」、「おおぎ学園」、「あけぼの授産センター」の県立施設を事業団に移管し、その後、障害者支援施設「希望の郷」として新築移転、統合となりました。また、「あさひ学園」も移管の後、障害児入所施設「未来」として新しく生まれ変わりました。

そして、事業団は、昨年 9 月、平時には地域交流の場として、災害時には福祉避難所として活用できる機能を付加した地域生活支援拠点「ふらっと KOKUFU」を開設されました。ふらっと KOKUFU では、利用者の方が国府支援学校の生徒とともに農作業を行い、本年 6 月に私も参加したマルナカ石井店での販売イベント開催を契機として、栽培した農作物を県内 4 店舗で販売するようになるなど、「農福連携」に取り組まれているところです。まさに、「ふらっと KOKUFU」、「未来」、ダイバーシティの拠点校をめざす「国府支援学校」が三位一体となって、我が国のモデルとして、ここに誕生しつつあるところです。

さらには、四国大学との包括連携協定に基づく事業をはじめ、東京パラリンピックを契機とした障がい者スポーツ、芸術文化に関する事業などを大変意欲的に展開しておられ、我が国の福祉施策のモデルを数々打ち出していただきました。これからの福祉行政は大いに進化しなければならない大変重要な時代であります。事業団には、新たな 50 年も、常に利用者の方の目線で、行政と共にしっかりと歩んでいただくことを期待しております。

結びとなりますが、事業団のさらなる飛躍と、職員、利用者並びに関係者の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げ、私からの感謝とお祝いの言葉とさせていただきます。

本当におめでとうございます。そして、ありがとうございます。

祝 辞

徳島県議会議長 南 恒 生

本日ここに、「社会福祉法人徳島県社会福祉事業団設立 50 周年記念式典」が挙行されるにあたり、県議会を代表いたしまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴団体におかれましては、昭和 47 年の設立当初から、利用者視点をモットーに、障がいのある方やそのご家族に対する切れ目のない支援に、積極的に取り組まれるとともに、昨年 9 月には総合的な地域生活支援拠点として「ふらっと KOKUFU」をオープンさせるなど、地域共生社会の実現に向け、大きな役割を果たしてこられました。

これもひとえに、小谷理事長をはじめ、利用者や地域の皆様方のご理解、ご協力の賜であり、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、改めて申し上げるまでもなく、私たちの社会生活は、多種多様な個性を持たれる方が、共に助け合い、共生することで成り立っております。

特に、障がいの有無にかかわらず、全ての人々が地域社会の中で個人として尊重され、支え合える社会の実現のためには、関係機関の連携による、きめ細やかな支援の充実はもとより、県民一人一人の理解と協力が深まることが重要となってまいります。

こうした中、貴団体におかれましては、今年 1 月に四国大学との包括連携協定を締結され、地域の課題である福祉人材の育成に取り組まれるなど、福祉と教育の連携による新たな可能性に期待が寄せられているところであります。

さらには、農福連携の取組みの一環として、「ふらっと KOKUFU」において、国府支援学校の生徒さんと一緒に農業に携わるなど、ニーズを見据えた新たな取組みに積極的にチャレンジされておりますことに、改めまして敬意を表する次第であります。

県議会といたしましても、障がい者福祉の推進、並びに、共に支え合い誰もが活躍できる社会の実現に向け、今後とも全力で取り組んで参る所存でありますので、今後ともご尽力賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりましたが、貴団体の今後ますますのご発展と、本日お集まりの皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

祝 辞

四国大学・四国大学短期大学部
学長 松 重 和 美

徳島県社会福祉事業団設立 50 周年誠にありがとうございます。今日はお祝いの言葉を述べさせていただく機会をいただき本当にありがとうございます。さきほど本学の書道文化学科の学生、それから VR の協力でこの式典を盛り上げさせていただいております。

昭和 47 年設立のおそらくその前から共生社会に向けて色んな取り組みがあったと思います。今日も感謝状を受けられる沢山の団体、個人の方がおられます。それぞれの立場でこの共生社会を作るということで色んな方のご尽力があって 50 年になっていると思います。

改めて現在 SDGs と呼ばれるものがあります。ご存じのように 2015 年に国連の会議で採択された「持続可能な開発目標」で、2030 年を目指してということなのですが、2030 年でおそらく全て完結する話ではないと思います。共生社会を作るということも別に期限を決めたものではなくて、まさにサステイナブル、持続可能な社会を作るという中での目標と思います。

ご紹介いただいたように社会福祉事業団と本学とは包括的連携協定を結ばせていただいております。この協定がある無しには関係なく、我々地域における大学、学生さんも含めて一緒に取り組む、その意味を考えながら何ができるか、どのように社会、それから人の目線で我々が育っていくか、そういう形での活動しております。

先日はサステイナブル宣言というのを大学で出させていただきました。その趣旨に沿って、教育、研究、地域貢献をやっていこうではないか、ということです。世の中の状況は変わりますし、色んな科学技術も進歩します。それぞれに応じて我々自身が現状をきちんと認識し何が出来るか、新しい技術も必要ですし、皆さん方の理解も必要だと思います。

これからさらに 50 年ということで、新しい再出発の年でもあると思っております。徳島県、実はサステイナブルの社会としては先進県でもあります。神山、上勝、色んなところは全国、世界からも注目されています。おそらく事業団の取り組みもある意味では先進的取組みの一つにあると思います。そういった面で我々、地域の方々と一緒に是非こういう共生社会、その在り方を追求していきたいと思っております。今日は事業団の 50 周年の感謝のつどいということで、これから更に 50 年、100 周年を目指して、徳島の地から新たな社会、誰も取り残されない共生社会を目指していければと思っております。簡単ですけど、私からの感謝のご挨拶、お祝いの挨拶とさせていただきます。今日は本当におめでとうございました。

保護者のメッセージ

希望の郷家族会
会長 松 永 幸 子

徳島県社会福祉事業団設立 50 周年を迎えられた事、心からお祝い申し上げます。

徳島県社会福祉事業団様におかれては、障害児入所施設未来、障害者支援施設希望の郷を中心とした社会福祉事業の運営に加え、昨年9月には地域生活の拠点施設としてのふらっと KOKUFU のオープンなど常に地域の福祉ニーズに応えるために行政や関係機関と一体となって事業を運営されていることに、利用者家族を代表して感謝申し上げます。また、徳島県立障がい者交流プラザや徳島県立総合福祉センターにおいても様々な事業運営をされており、広く県民の福祉の向上のために社会福祉法人として責任ある事業運営に努められていることに対し御礼申し上げます。

希望の郷家族会では、毎月第2火曜日のボランティア、毎月20日の家族会、年間行事では、希望の郷祭り、日帰り旅行など機会あるごとに施設を訪ね利用者や職員さんと親交を図りながら、応援させていただいています。施設は知的にハンディのある利用者が毎日の生活の中で、レクリエーションや簡易作業などの楽しい日課や生きがい作り、入浴や基本的な生活習慣の生活支援など、一人ひとりに寄り添った支援をして頂いています。季節ごとの行事やおいしい食事など利用者一人ひとりの笑顔が見られる施設運営に尽力され、特に、強度行動障がいの利用者などの生活上の課題には細やかな支援、高齢や病弱な利用者の健康管理、体力の増進など多くの職員さんがチームとなり支援していただき、感謝いたしております。常日頃より支援員、看護師、管理栄養士、理学療法士など様々な職種の方の専門的なサポートを頼もしく思っています。

令和2年から世界中、日本全国で感染拡大している新型コロナウイルス、その対策として外出、行事等が自粛され、施設の職員さんが一丸となってこの難局を頑張って日々健闘していただいています。家族会として感謝しかありません。

家族会の会員も高齢化が進み、親から兄弟、成年後見人と多様化しております。家族会は、障害のある我が子が、親なき後も希望の郷で安心して生活できることを願っています。

今後も、希望の郷家族会は、障がいのある者が自分らしく、自己の意思決定が尊重される社会の実現のため活動を続けて参ります。徳島県社会福祉事業団様の益々のご活躍を祈願し、「飛躍の100年」となりますことをお祈り申し上げます。この度は、誠におめでとうございます。

保護者のメッセージ

未来保護者会
会長 西 町 和 也

この度、社会福祉法人徳島県社会福祉事業団が法人設立 50 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴法人が設立された昭和 47 (1972) 年は、沖縄の本土復帰や日中国交正常化が実現した年です。まさに、我が国が高度経済成長を謳歌する一方で、社会インフラの整備は遅れ、そのしわ寄せが子供や弱者に来ていた時代です。

時が経過していく中で、国府支援学校に隣接していたあさひ学園の運営を引き継ぎ、まもなくして、施設全体もリニューアルされ、現在の障害児入所施設「未来」が生まれました。

さらに、「放課後等デイサービス事業所未来」のサービスも開始され、徳島市国府地区の住民の皆様方にも、ご支援を賜りながら、地域密着型の障害児施設として現在に至っております。

私の子供が入所して、お世話していただくようになって間もなく 10 年になります。入所した頃は、小学生であった我が子が、職員の皆様のご熱心なご指導や施設の仲間たちと共に暮らすなかで、少しずつ成長し社会性を身につけ、大人への階段を歩んでおります。

特に、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で、外出できない時期が長く続きましたが、施設長をはじめ、職員皆様のご尽力のおかげで、幸いにも子供達の成長を見続けることができ、言葉では語り尽くすことができない程、感謝しております。

また、この場を借りて保護者達の気持ちをお伝えしたいと思います。いつも子供達に寄り添っていただき、共に成長を喜んでくださるチームのような温かい関係は一朝一夕に作れるものではありません。これからも一体となって、全ての利用者がその人らしく、楽しく、幸せな人生を歩めるよう、ご指導をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、法人の皆様、職員の皆様のご多幸をお祈りすると共に、これからも社会福祉法人徳島県社会福祉事業団の諸施設が地域に溶け込み、物心ともに益々充実・発展し、また在籍する方々にとってもかけがえのない施設としてあり続けますよう心からお祈り申し上げます。

保護者のメッセージ

ラクリエ家族会
会長 桑村圭二郎

社会福祉法人徳島県社会福祉事業団が設立50周年を迎えられ、ここに「設立50周年記念事業記録誌」が発刊されましたことを心からお祝い申し上げますとともに、創立以来、様々な活動を通じて事業団の発展にご尽力された歴代理事長をはじめ職員の方々の皆さまのご努力に敬意を表します。

徳島県社会福祉事業団は、昭和47年に設立し、広く県民福祉の向上と増進に寄与することを目的に、障がい者及び障がい児の支援をはじめ、様々な福祉事業に取り組み、徳島県の社会福祉の充実に大きく貢献してこられました。

特に近年では、令和3年に障がい福祉の新たな拠点として、地域生活支援拠点「ふらっとKOKUFU」を整備し、総合的な地域生活支援や地域共生の拠点をめざす取り組みをはじめられております。

さて、私たち「ラクリエ家族会」は、そのふらっとKOKUFU内で、就労継続支援、就労移行支援及び生活介護事業を行う施設である「ワーク&デイラクリエ」の利用者関係家族からなる家族会として、令和3年9月に発足いたしました。

「ラクリエ」は、「楽しい(ラク)」と全く新しいものを生み出す、創り出す、世に送り出すの意味を持つ英語の「Create(クリエイト)」を組み合わせた造語で、「楽しく創作活動や生産活動をしていきたい」という意味が込められております。

当家族会は、設立から間もない、また、50名弱の小さな会ではありますが、会員同士の親睦・交流を図りながら、家族会としての様々な活動、研修、催しなどを積極的に実施してまいります。そして、施設の名称にふさわしく、楽しく、新しいものを生み出せるような会をめざすとともに、利用者にとって、より良い施設サービスが受けられるよう努めてまいりますので、引き続き、職員の方々の皆さまのご支援、ご指導をお願い申し上げます。

結びに、社会福祉法人徳島県社会福祉事業団が設立50周年をひとつの節目とされ、今後とも、利用者の視点に立ち、職員の方々が一丸となって、利用者、保護者、地域の方々の笑顔あふれる施設、社会づくりに向け、さらに発展されますようご期待申し上げます、お祝いのことばといたします。

《 感謝状贈呈 》

法人設立 50周年を記念して、これまでご支援いただきました関係機関・団体の皆様に記念式典において、小谷理事長より感謝状を贈呈いたしました。

感謝状贈呈者名（順不同）

希望の郷家族会 会長 松永 幸子 様
森正株式会社 代表取締役社長 東條 隆彦 様
旭鉱石株式会社 代表取締役 漆原 本晴 様
障害児入所施設「未来」保護者会 様
株式会社ふじや 様
気延クラブ 様
ヴェリタス株式会社 代表取締役 井口 賀夫 様
株式会社カモト 代表取締役 加本 一樹 様
株式会社寺内製作所 代表取締役 寺内 カツコ 様
ケーズワークス 代表 辻内 恵子 様
アサヒツキ板工業株式会社 鏡 健之 様
徳島県点訳友の会 会長 岩崎 明子 様
徳島県音訳ボランティア友の会 会長 岸 原子 様
徳島県手話通訳登録者会 代表 稲垣 由里子 様
徳島県要約筆記登録者会 代表 三井 恵玲奈 様
布川 利彦 様
江川 禎彦 様
藤岡 明美 様
徳島市中昭和町1・2丁目自主防災会 会長 中村 正則 様
社会福祉法人白寿会 理事長 庄野 光昭 様
徳島県立国府支援学校和太鼓部 様
さくら学級 様
元山窯十代目 田村 栄一郎 様

「ごちゃまぜ～ 地域を拓く共生社会」

社会福祉法人 佛子園
理事長 雄谷 良成 氏



講師プロフィール：石川県出身。金沢大学卒業後は、青年海外協力隊（ドミニカ共和国、障害福祉指導者育成）財団法人フンダシオン・オーサカセンター長を務め、帰国後、北國新聞社、金城大学非常勤講師等を経て、現在は社会福祉法人 佛子園（ぶっしえん）理事長、公益財団法人 青年海外協力協会 会長、日蓮宗 普香山蓮昌寺住職を務める。

「ごちゃまぜ」の最初のプロジェクトは、住職の跡取りがない廃寺を人が集まる場所に再生していくことでした。あるとき、通ってくる認知症の女性が自ら重度心身障害者の男性にゼリーを食べさせようとしていました。初めはうまくいきませんでした。3週間ほど繰り返すうちに食べさせられるようになりました。その男性の首の可動域が広がったのです。その後、女性の深夜の徘徊も激減しました。人間と人間が関わりあうことによって化学反応が起きる。このように、高齢者も障がい者も子どもも住民もみんな一緒に暮らす場所「ごちゃまぜ」は大きな力を持っているのです。

佛子園は建築の上でもいたるところに「ごちゃまぜ」が生まれる工夫をしています。例えば、中にいる人と外にいる人と自然に視線が合う設計になっています。目を合わせることで、人との関係をつくる第一歩です。誰もがどの場所でも過ごすことができ、交流できる、居心地の良い場所をつくりたかったのです。

障がいのある人の社会的役割の創出という観点から、仕事づくりを大事にしています。後継者がいない地域で、菌床しいたけ栽培や豆腐の製造に取り組んだり、1998年からは町おこしに取り組み、能登の高齢過疎地でビール醸造など、農福連携モデル6次産業化などに取り組んでいます。



また、美川では、駅の待合室を交流の場として機能させた、美川 37 (みんな) cafe を立ち上げました。ここでは障がいのある人が全て運営しています。このプロジェクトにより、他の地域からも人が集まり、駅の乗降客数がV字回復しました。2014年には金沢市内に、「ごちゃまぜ」をコンセプトに街としてデザインされた高齢者施設や児童施設等、生涯活躍のまち、Share 金沢の運営を開始しました。敷地内には、温泉、レストラン、アルパカ牧場などがあり、幅広い職種を設定し、地域住民の雇用機会を創出しています。このように、高齢者や障がい者の労働力は事業継承や経済効果を生む大きな可能性を秘めているのです。

支える側と支えられる側、看取る側と看取られる側という関係性ではなく、「ごちゃまぜ」の場所で、お互いに気配を感じているような関係づくりができることが、暮らしていく中で必要です。

最後に、障がいの有無や年齢に関係なく、多様な人たちが「ごちゃまぜ」で交流することで、誰もが役割を持ち、元気になり、地域が活気づく、今は、そのような地域共生社会が求められていることを忘れてはいけないということを本気で思います。



(注) ご講演の要旨をまとめさせていただきました。(記録係)

「強度行動障害と共に歩む ～ 持続可能な未来へのアプローチ ～」

希望の郷、未来、ふらっとKOKUFU

講師：高橋 理恵 氏 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
総務企画局研究部研究課 研究係長
堀内 桂 氏 社会福祉法人北摂杉の子会 コンサルテーション室 室長
事例報告者：吉本 直紀 障害者支援施設 希望の郷 サービス管理責任者
香川 雄一 障害者支援施設 希望の郷 支援員

希望の郷では、強度行動障がいをもつ方が30名在籍しており、日々の支援についてサービス管理責任者を中心に支援員、看護師、理学療法士などがチーム・カンファレンスを実施し、個別支援計画を作成、「その人らしく暮らしをサポートする」ことを基本に運営をしています。

このワークショップは、「強度行動障害」について施設と保護者、医療と連携を行い、更なる支援の充実のために行うこととなりました。

はじめに、希望の郷利用者2名の「生活上の課題と強度行動障がいからくる様々な問題行動について」事例を報告しました。

香川より利用者 A さんについての事例報告

「利用者 A さんは、入所10年を経過する男性の方です。行動面では自閉傾向が強く、命令や注意されることを嫌がり、時折大きな奇声をあげて顎を叩く自傷行為があります。情緒不安定時にはパニック状態になり、自傷行為が激しく、落ち着くまで別室に誘導して刺激を遮断するようにしています。自閉傾向が強く、言葉を反復しパニックになるなど生活は落ち着きません。」と報告しました。

吉本より利用者 B さんについての事例報告

「利用者 B さんは、幼少期より障害児入所施設で暮らし、成人期に入り施設にやってきた20歳の男性です。自閉症があり、強いこだわりで食事が摂れないことや頬、頭を叩く自傷行動が激しく、身体への心配が危惧される状態にあります。不安定時には他害行動も見られます。」と報告しました。

次に、お招きした先生方にご講演をいただきました。

高橋理恵先生には、「強度行動障害の基礎理解-問題行動が起きる理由とその支援-」、堀内桂先生には、「強度行動障害支援の理論と実際」と題し、現場での対応事例などを交えお話を頂きました。

高橋先生は、強度行動障がいの状態像として「本人の健康を損ねる行動、周囲の人に影響を及ぼす行動が頻繁にあり、特別に配慮される支援が必要な状態である。」と話され、行動障がいが起こる原因については、「本人の障がい特性と環境的要因が関係しており、問題行動として困っているのは周囲で

はなく、本人が最も困っているためにそのような行動に及んで、これらは障がいからくる苦手さが悪循環となり増幅されている状態となっている。」と説明されました。このような方を支援するための基本的な姿勢や考え方として、適切なアセスメントの実施と、統一された支援技術が重要であることを学びました。

また、支援員の支援スキルや方法がバラバラのまま実施してしまうところがあったため、支援方法の統一、声掛けをする際にも本人が迷わないように言葉を選び支援していくこととしました。

堀内先生は、「強度行動障がい状態の背景的要因としての障がい特性や脳機能の働き、その中で独特の身体感覚を併せ持っている。」と説明されました。また、「過活動下の脳の状態のなかで過剰接続や接続不良が起こり、行動障がいが出ている。」とも話されました。これを整理する支援として、適切なアセスメントのもとスケジュールボードを利用するなど、環境の構造化が有効に働くことを知り、情報のインプットとアウトプットを補うことが支援の柱となることを学びました。

職員も、工夫してスケジュールボードを作成し活用していく中で、本人の受け入れやすいものの工夫をしていくように取り組みを始めています。

今回の講演を聞き、「本人のために作成していたものが、本人を惑わしてしまう」結果となることを知り、日常生活から見直しを進め、アセスメントをしっかりとしていく重要性を再確認しました。

講演終了後に、2人の利用者の生活の現状や生活リズム、本人の好むもの嫌がることなどの情報共有を図り、生活上の課題の改善のための話し合いがもたれ、職員が持っていた固定観念や認識のずれが利用者にとっては苦痛であり、結果、強度行動障がいをもっと進めていくことを知りました。

今回、ワークショップにご参加いただいた、同じような悩みを抱えている他法人の職員の方々からは、「今後の支援を見直すとともに支援の質の向上のきっかけが得られ、学術的な知識と、実際の支援方法の現場を知る有意義なワークショップだった。」との声もいただきました。

今後も障害福祉サービス事業所として、多くの生活課題を持つ利用者を支え、地域生活や施設での落ち着いた暮らしを守ることに取り組んでいければと考えています。



「光アート × パラスポーツ ～ フード・ファイターゲーム ～」

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
徳島県障がい者スポーツ協会

講師：上野 昇 氏 四国大学 生活科学部・人間生活科学科・デザインコース 准教授
立石 朝春 氏 四国大学 総務・企画部 社会連携推進課
徳島光・アート教育人材育成事業 T-LAP 光・夢工房兼任
プログラム開発担当

障がいの有無に関係なく、身近なところで IT・ICT の技能を活用し、光アートでパラスポーツを推進するとともに、心身の健全な運動機会を創出することを目的に共同研究しています。

経緯としては、2020 年よりコロナ感染拡大予防対策のため、障がい者支援施設は、外出等の活動制限で生活支援サービスが狭小化し、身体を動かす機会が減少しつつありました。

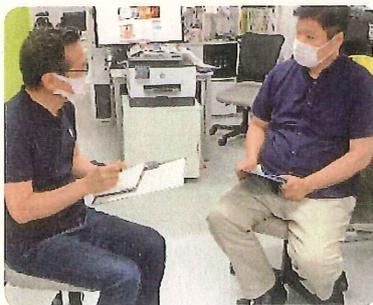
そこで、施設生活をしている利用者の方々を対象に、身体を動かし健全な生活を送ることを目的とするため、今回、「光アート（障がい者芸術文化活動支援センター）」と「パラスポーツ（障がい者スポーツ協会）」、四国大学の有識スタッフの連携による、ICT（情報通信技術）を活用した身体運動ゲーム「フード・ファイターゲーム」の共同研究・開発が実現しました。



ゲーム内容は、パソコンカメラでプレーヤーをプロジェクターでスクリーンに映し出し、設定された時間内に食べ物のイラストとボールを重ねながらポイント獲得を競うエクササイズゲームです。障がいの有無に関わらず、立位や座位でも実施することが可能で、運動強度はゲーム内で設定したり、カメラとの位置関係を取りながら難易度を調整します。



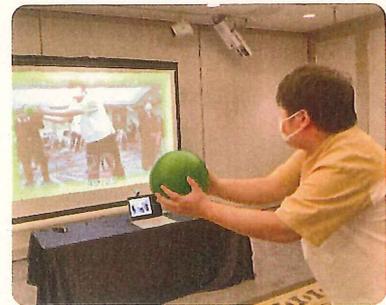
◀ 当日の様子を YouTube でご覧いただけます



①事業団と四国大学との打合せ
(右：上野准教授)



②利用者の方へのアセスメント調査



③フードファイターゲームに挑戦している参加者の様子

上野先生は、「ラーメンや寿司などのイラストデザインを担当しました。最終的にシンボリックな「ピクトグラム」ではなく、絵画的な「手書きイラスト」で表示することにしました。理由はゲームを何度も繰り返す内に、単純で分かり易いピクトグラムだと直ぐに飽きられる可能性があります。逆に見にくいかもしれませんが、「手書きイラスト」であれば色味、形、風味などより多くの情報を伝達できるため、今回はプレイヤーにとってあまり飽きのこない「手書きイラスト」にこだわってみました。」とお話しされました。

立石先生は、「「フード・ファイターゲーム」は、「より多くの人々が楽しく体を動かせる」というアイデアをもとに、シンプルな構成と分かりやすさを重視して作成しました。一目で理解できて利用しやすいゲームにするため、ルールもより簡単にしました。なるべくいろんな施設やサービス事業所で活用して貰いたい為、特別な物品は必要なく、「PC」「ウェブカメラ」「インターネット環境」「プロジェクター」があればゲームができるようにしました。

また、入所施設やデイサービスで、デモンストレーションを実施した際は、入所者の方が一度デモプレイを見るとすぐにルールを理解してゲームを楽しんで頂いたことが印象に残っています。やってみたいという方がいらっしゃれば、お声かけ頂ければと思います。」と話されました。

このワークショップBには、障がい者の方々や障がい者スポーツ指導員の方々をご参加くださり、いろんなお声を頂きました。

参加者の声

- ・各施設対抗戦ができるようなシステムもあつたらいいなと思いました。
- ・魚を足もとで動くのを手でつかめるようなものもやってみたい。利用者さんに、このゲームができるようにしていきたい。全く関係なく加茂の大楠に大きく映像うつしてほしいです。
- ・室内でできるので天気など気にしなくてできるのでいいと思う。
- ・アンケートの結果、施設や教育機関などでも取り組みたい

この試みは、10月3日、皆様に「フード・ファイターゲーム」を楽しんで頂くため、6月から約3カ月の期間で、発案事項の打合せや具体的な共同研究を進めてきました。短期間にも関わらず、御協力して頂きました四国大学の上野准教授ならびに立石プログラム開発担当のお二方、そして、この共同開発に至るまでに御支援頂いた施設関連の職員様・利用者様に感謝申し上げます。

今後、このゲームを活用して、より健康な施設生活と楽しみの和を広げるツールとして、さらに共同研究を進め、多くの方に利用して頂けるような機会を作っていきたいと思います。

「Library for All ～ 近未来の図書館や図書のカタチを覗いてみよう ～」

視聴覚障がい者支援センター

第1部 AIスピーカーで聴く読書

講師：原田 敦史 氏 全国視覚障害者情報提供施設協会 副理事長
堺市立健康福祉プラザ 視覚・聴覚障害者センター 点字図書館 館長

全視情協（全国視覚障害者情報提供施設協会）※1では、Amazon が提供している「アレクサ」という AI スピーカーを使ってより簡単に「サピエ図書館」を利用する技術の開発が進められています。今回のワークショップでは、完成した際のイメージ画像を紹介していただきました。

最初に、原田氏は、視覚障がい者は、普段、テレビやラジオなど主に音声により情報を得ていること、点字図書館や「サピエ図書館※2」を利用して読書を楽しまれていることなどのお話をされた後、「サピエ図書館」の仕組みや利用の仕方について、動画により具体的に説明してくださいました。

そして、「青空朗読」や YouTube に上げられている朗読やラジオドラマなど、パソコンやスマホでも利用できる Web サイトやアプリについても紹介していただきました。しかし、視覚障がい者の多くはそのようなサイトがあることさえ知らないため、聞いている方は少ないというお話しでした。これらの Web サイトやアプリは利用者の読書方法の選択肢を増やすことから、今後、積極的に情報提供を行っていきたいと思います。

最後に、AI スピーカーで「サピエ図書館」を利用したらどのようなイメージになるのかを、AI の実際の音声パソコンに録音したものを使って説明していただきました。「本を探す」「本を聴く」「音量を調節する」など、シーン別にどのように語りかけると、どのように反応するのかなど、リアルにイメージすることができました。

この技術は、完成間近で、来年度には試験利用を開始するそうです。難しい操作をしなくても、スピーカーに語りかければ読書ができる、正に、手を伸ばせば届きそうな、近未来の読書のカタチです。点字図書館としては、運用可能になれば、いち早く利用者の方々に紹介したいと考えています。

※1 全国視覚障害者情報提供施設協会：全国の点字図書館、一部の公立図書館、ボランティア団体等 100 施設・団体で組織し、「サピエ」の運営を行っているNPO 法人。

※2 「サピエ図書館」：視覚障害者等、活字による読書に困難のある者に対して、各種情報を提供する点字図書や録音図書の全国最大の書誌データベースを保有するインターネット図書館



第2部 進化するバリアフリー図書館サービス

講師：瀬尾 俊二 氏 株式会社 図書館流通センター 電子図書館推進部
前川 智哉 氏 株式会社 図書館流通センター 中四国支社 営業部

TRC（図書館流通センター）は、全国に支社を構える図書館業務の支援に特化した会社です。対象とされている図書館は、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館など多岐にわたり、事業の内容は、「図書館のための本屋さん」「書誌情報データベースの作成」「受託運営」の3本の柱を中心に全国展開されています。

今回のワークショップでは、TRCが力を入れて取り組んでおられる、SDGsの考え方である「誰も取り残さない」図書館運営の視点に立った、「アクセシブルな電子図書館の提供」と「VR図書館の開発」の2つを紹介していただきました。

電子図書館とは、インターネット上で利用する図書館のことで、電子図書館のサイト上で本を検索し、電子書籍を読んだり借りたりできます。TRCが提供されている電子図書館のシステムは、「LibrariE&TRC-DL」というもので、306自治体中、288自治体で採用されており、国内導入実績は第1位となっています。

この電子図書館では視覚障がい者向け利用支援サイトが提供されています。このサイトは、パソコンの画面に表示された文字を音声で読むスクリーンリーダー（有料のものと、無料のものがあります）というソフトを使用します。複雑なレイアウトはなく、テキスト（文章）をメインにした「テキスト版サイト」です。これによって、視覚障がい者も電子図書館を利用しやすくなります。

VR図書館は、家にいながらあたかも図書館に行ったように仮想現実の世界で、本を「探す」「借りる」「読む」ことができます。その際、電子書籍であればすぐに再生利用ができ、紙書籍の場合は図書館の宅配サービス等を利用することになります。実際に運用するまでには、導入費用と利便性の問題など、実用化までにはまだまだ越えなければならない壁は高いとおっしゃっていましたが、これが導入されると、肢体や視覚に障がいのある方等来館利用が困難な方でも図書館を利用できるようになるなど、多くの可能性を秘めていると感じました。

この後、参加者の皆様に、「LibrariE&TRC-DL」の一般向けサイトと視覚障がい者向けサイトの体験をしていただきました。

徳島県でも、読書バリアフリー推進計画が策定され、県・公共図書館等・点字図書館が連携し、読書バリアフリーの推進に向けて、取り組みを進めているところです。電子図書館のサイトもAIで利用可能にするなど、TRCのこれからの取り組みに期待するとともに、点字図書館としても、ネットワークをさらに広げて、必要とする人に必要とする情報を提供できるよう進化し続けなければならないと思います。



100周年への希望のメッセージ ～みんなの想いを一つのアートに～

設立50周年記念事業の締め括りとして、100周年へ向けたメッセージで何か残せないか…と想いを巡らせ、「未来へつなぐメッセージ」をテーマとし、言葉だけではなく、みんなの想いをアートでつなぐことにいたしました。

このセレモニーを迎えるにあたり、職員の皆様には未来へつなぐメッセージを託してもらいました。

5枚のパネルに、希望の郷、未来、ふらっとKOKUFUのそれぞれで利用者さんと共に、100周年への希望のアート作品を制作しました。

虹のかかる大空に、たくさんのメッセージをのせて風船を浮かべます。当日、繋ぎ合わせることで、みんなの想いが“一つのアート”として完成いたしました。



未来へのメッセージ

- ・いつの時代も誰かのために
- ・向かい風の現実はやさしくて爽快
- ・風を切って走れ
- ・福祉を楽しむ!支援をおもしろく!キラキラと輝く!
- ・になりたい職業 NO.1になる
- ・笑顔と活気あふれる居場所に!!for everyone
- ・ひとりひとりの幸せの形を大切に
- ・未来は今の積み重ね。今始まる未来をみんなで。
- ・みんなの色でつなげよう!未来の虹
- ・夢ある未来は、今日の前にある!
- ・未来に続け、幸せの輪
- ・一人一人が輝けるそんな未来へ

このような熱いメッセージが集まり、当日参加できなかった職員も含め、みんなの想いが一つになり、100周年に向けて大きな希望の虹がかかりました。様々な視点からの未来への希望が繋がった、キラキラ輝くアートとなりました。色々なメッセージを目にして、徳島県社会福祉事業団の明るい未来を確信できることと思います。

徳島県社会福祉事業団の将来をより輝けるものにできるよう、地域の方やいろいろな力をつなぎ合わせ、一丸となり、100周年を目指して共に歩んでいきましょう。

「ふらっと KOKUFU 1 周年感謝祭」

ふらっと KOKUFU

ふらっと KOKUFU が開設され令和 4 年 9 月 1 日で 1 年が経ちました。名称の「ふらっと」には、みんなが気軽にふらっと立ち寄り、交流できる所にしたいという思いを込めています。

障がい福祉の新たな拠点として、「総合的な地域生活支援の拠点」「子どもから大人までの切れ目のない支援」「地域共生の拠点」を目標に掲げ、その名にふさわしい施設となるよう、すべての職員が力を合わせて努力してきた 1 年でした。

また、ダイバーシティの先導モデルとして取り組んでいる「国府支援学校」と連携し、「地域一体型のキャリア教育」を進めるために役割を担ってまいりました。

開設から 1 年経ち、いまでは地域住民が防災パークを散歩し、近隣の子どもが交流パークで遊んでいます。また、地元スーパーでは定期的に国府支援学校の生徒さんと店頭販売を行い、地産地消に取り組むなど、ふらっと KOKUFU が地域住民の暮らしの一部となっている光景が見られるようになりました。

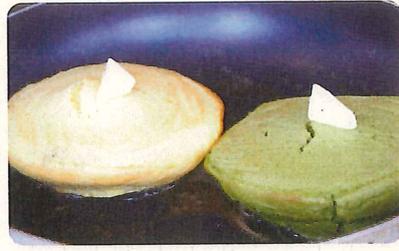
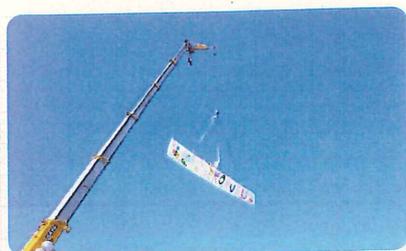
同年 10 月には開設当初から地域イベントとして開催されている「国府町マルシェ」とと

もに、地域の皆様へ感謝と、さらに発展させていくための節目として、「1 周年感謝祭」を開催いたしました。

オープニングセレモニーでは飯泉徳島県知事よりご祝辞をいただき、また阿波ふうど号ではふらっと KOKUFU 内の事業所「ワーク & デイ ラクリエ」の利用者さんと国府支援学校の生徒さんが協働で栽培・収穫した野菜のパウダーを活用した「ふくふくパンケーキ」の試食配布を知事と共にいたしました。

マルシェでは、バルーンアート等のボランティア、自主防災組織や地域の企業、国府中学校の防災学習倶楽部等、普段から交流のある地域の皆様に多数ご協力いただき、2 日間で 1,000 人を超える来場者となりました。

これからも、だれもが笑顔になれる新たな地域の「にぎわい」と「つながり」を国府町の皆様と創っていき、法人一体となり地域共生社会、ダイバーシティ社会の実現へ向けて取り組んでまいります。



子ども達の歓声と感動に包まれた 「とくしま体験トライ」

徳島県立総合福祉センター

音楽演奏や阿波踊り体験を通して子供たちの感性を磨き、併せて、相互の交流を図る、「とくしま体験トライ」を、令和4年11月5日、徳島県立総合福祉センター5階ホールで開催いたしました。

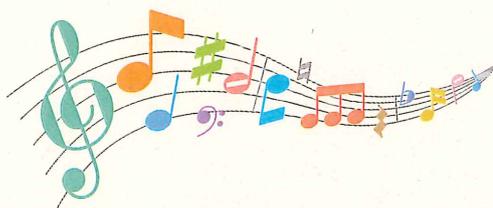
オープニングの後、徳島県警察音楽隊による管弦楽とカラーガード隊による「ふれあいコンサート」では、華やかな演出がステージ一杯に繰り広げられ、参加者50名が魅了されました。

続いて「交流タイム」に入り、フォローアップ移動知事室として飯泉嘉門知事が出席され、徳島県マスコットキャラクター「すだち君」も加わり、笑顔の参加者交流が行われました。その後、徳島県内唯一のプロマジシャン TAKA による「驚きのマジックショー」や徳島県阿波踊り協会所属娯茶平による、「ちびっ子娯茶平と踊ろう」の演出では、数々のパフォーマンスとともに、迫力ある演舞でフィナーレを迎えると、会場は大きな歓声と感動に包まれました。

今回のとくしま体験トライでは、長引く

コロナ禍の影響で子ども達が制限のある生活を送る中、徳島の様々な体験を通じて少しでも気分を和らげ、感性を磨く機会になったと感じております。

今後徳島県立総合福祉センターでは、地域防災力の向上を目指す「地域防災講座」の開催や生活習慣で健康長寿を過ごすための「生涯健康フェア」を開催するほか、各種講座や企画展を通じて地域貢献を果たしていきたいと考えております。



「2023 頑張るんじょ！とくしま パラスポーツフェスティバル」

徳島県障がい者スポーツ協会

当協会は、平成28年に設立され今年度6年目を迎えました。障がい者の健康増進や社会参加の促進を図り、コロナ禍においてもICTを活用するなど、新たな障がい者スポーツの推進に取り組んでいます。

この間、新型コロナウイルス感染症の影響により地域でのスポーツ活動が困難な中、安全・安心に配慮した各種スポーツ大会の開催、とくしま人材バンク「パラスポーツサポーター」等による技術指導を実施してきました。

また、外出困難な方や遠く離れている方とも繋がることのできるオンラインスポーツ教室の実施等、「リアル」と「オンライン」を組み合わせたハイブリッドで行い、より多くの方々が、スポーツを楽しむことができる事業を実施してきました。

徳島県社会福祉事業団設立50周年記念事業として、「2023 頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル」を、令和5年1月22日、徳島県立障がい者交流プラザで開催いたしました。

式典では、飯泉徳島県知事、井川徳島県副

議長よりご祝辞をいただきました。

また、小谷会長より当協会に関わる事業において、障がい者スポーツの発展に功労のあった方々に会長表彰を行い、感謝と敬意を表しました。

その後、パラスポーツ講演会、eスポーツ講演会、パラスポーツ・ICTスポーツ（四国大学との教材の共同開発事業）、eスポーツ体験、eスポーツ交流大会を催し、障がいのある方、ない方、子どもから高齢者の方まで、多くの方にご参加いただき、パラスポーツを楽しんでいただきました。

引き続き、全ての人々が自分らしく、個性や能力を発揮できる「ダイバーシティ社会」への実現に向けて、このような機会を設け、更なるパラスポーツの魅力を発信し続けてまいります。

また、障がいのある方が身近な地域で生涯スポーツを楽しめる環境整備、スポーツの実施率の向上、誰もが親しみやすい「ユニバーサルスポーツ」の推進をSNS等を通して情報発信し、共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。



「四国大学との連携事業」

大学連携・広報プロジェクトチーム

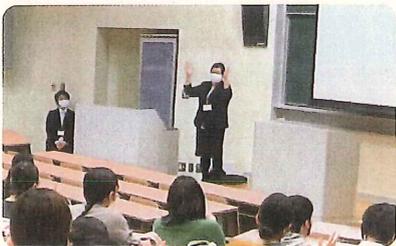
四国大学と包括連携協定締結

事業団は、令和4年1月24日に、四国大学及び四国大学短期大学部と「包括連携協定」を締結し、地域の課題に連携して取り組むために様々な事業を実施しています。

事業団の専門職員が特別講師

生活科学部児童学科前田宏治教授の令和4年度2年生後期「特別支援教育論」の講義で、事業団の専門職員が特別講師として講義を行いました。

10月12日には、「視覚障がい・聴覚障がい」の講義で、視聴覚障がい者支援センターの歩行訓練士及び手話通訳士が講義を行いました。



また、10月26日には「発達障がいの基本的な特徴・特性理解」について、児童デイフラット未来の作業療法士及び未来の主任支援員が講義しました。



障がい者アート巡回展

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターが、第8回「障がい者アーティストの卵」発掘展受賞作品の巡回展を、令和4年11月10日から20日まで、四国大学交流プラザ1階TAG-RI-BAで開催し、四国大学の学生等関係者に障がい者アートを鑑賞していただきました。



学生が事業団のPR動画制作

経営情報学部メディア情報学科山本耕司教授の3年生後期演習の課題で、受講生30名が10班に分かれて事業団のPR動画を制作しています。

10月14日と21日には事業団の職員が関係事業所の事業内容を学生に説明し、10月28日にふらっとKOKUFU、未来及び障がい者交流プラザで撮影が行われました。

編集を経て令和4年度中に完

成し作品は事業団に寄贈される予定です。

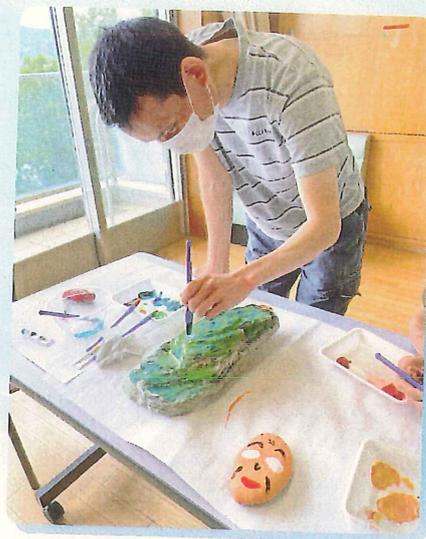


教材の共同開発

四国大学内の組織「徳島県光・アート教育人材育成事業本部」と徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、徳島県障がい者スポーツ協会が共同して「光アート×パラスポーツ」をテーマに、プロジェクトマップの教材を開発しており、50周年記念大会のワークショップで経過報告しました。

書道パフォーマンス

50周年記念大会のオープニングとして、書道文化学科の学生が、施設利用者と一緒に書道パフォーマンスを行うとともに、VR（バーチャルリアリティ）書道を行いました。



発 行

 利用者支援を通じて笑顔あふれる施設づくりを推進します
社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団

T E L 088-631-1200

F A X 088-631-1300

HP:<http://fukushi-center.jp/honbu/>

E-MAIL:honbu@fukushi-center.jp